

2011年6月期

第3四半期累計期間（3Q）

決算補足資料

2011年4月28日

Professional Engineering Design Firm

 **構造計画研究所**
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

目次

1. 3Qの業績について	2
2. 2011年6月期 通期業績予想について	18

【本資料についてのご注意】

- ・本資料の本文では、「第3四半期累計期間」を、「3Q」と記載しております。
- ・本資料の記載金額は原則、百万円未満を切り捨てて表示しております。

1. 3Qの業績について

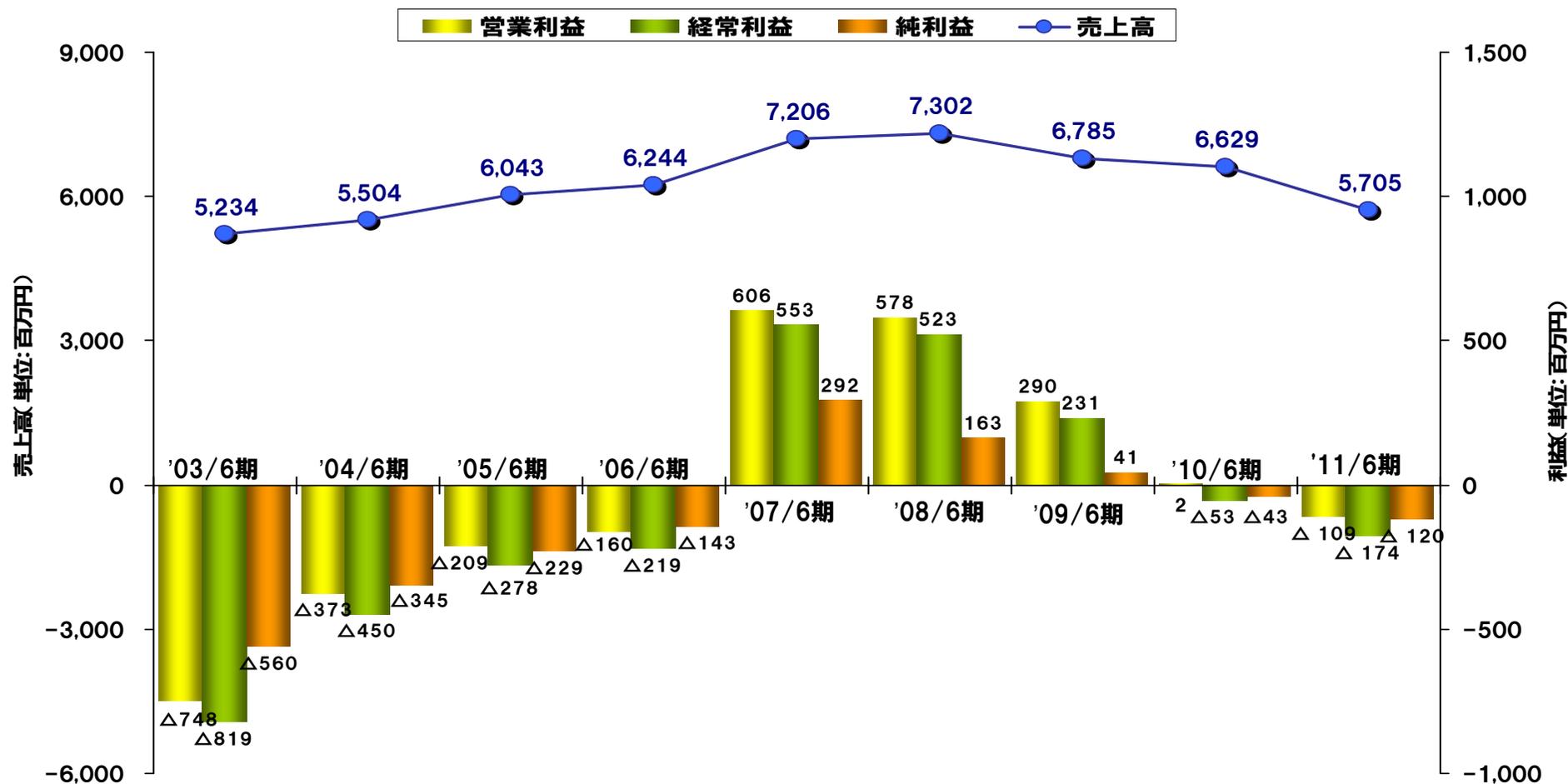
1-1 決算ハイライト

3Q決算の概要

単位:百万円

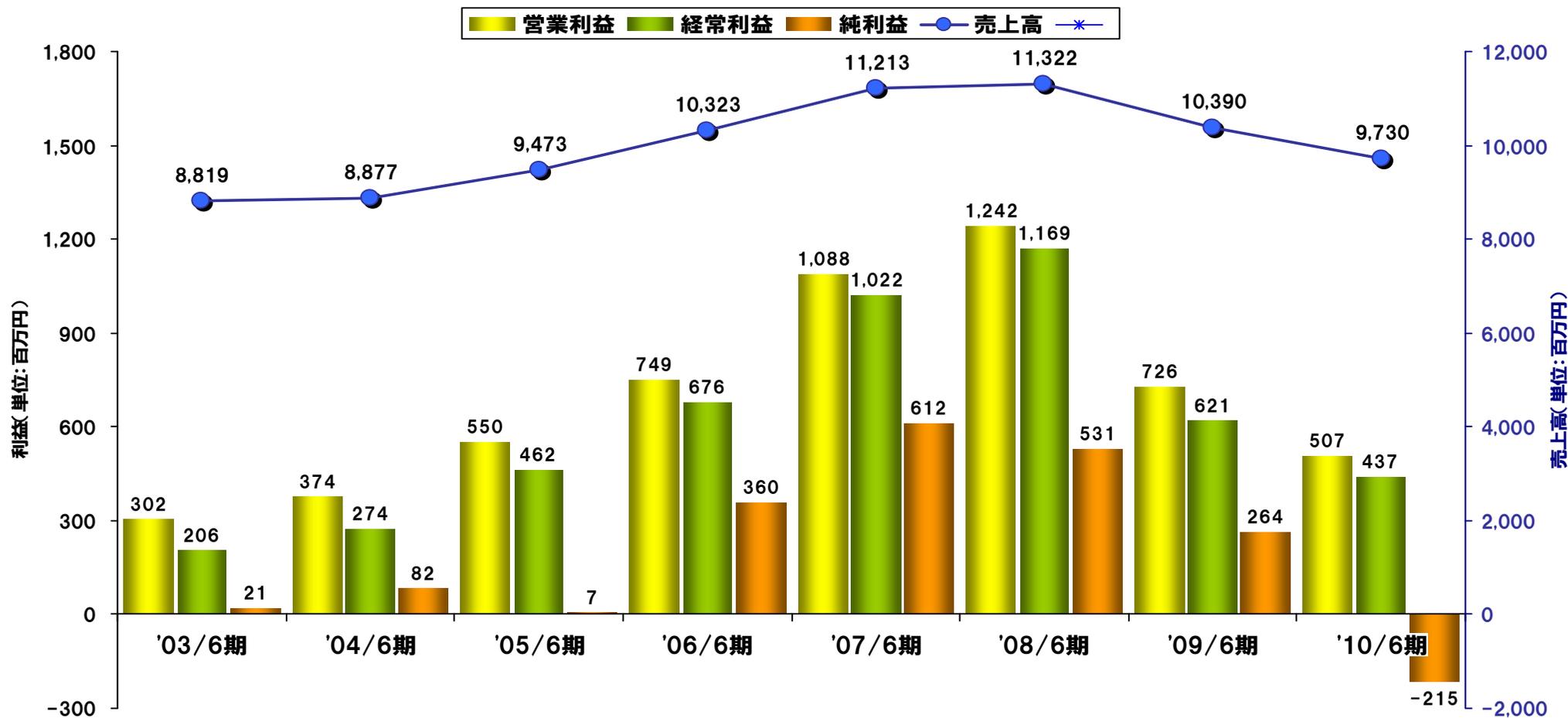
	'10/6期 3Q	'11/6期 3Q	対前年同期 増減額 (増減率)	'11/6期 通期予想	通期業績に 占める割合
売上高	6,629	5,705	△923 (△13.9%)	10,000	57.1%
営業利益	2	△109	△111 (-)	720	-
経常利益	△53	△174	△121 (-)	640	-
当期純利益	△43	△120	△77 (-)	350	-

第3四半期累計期間の業績推移



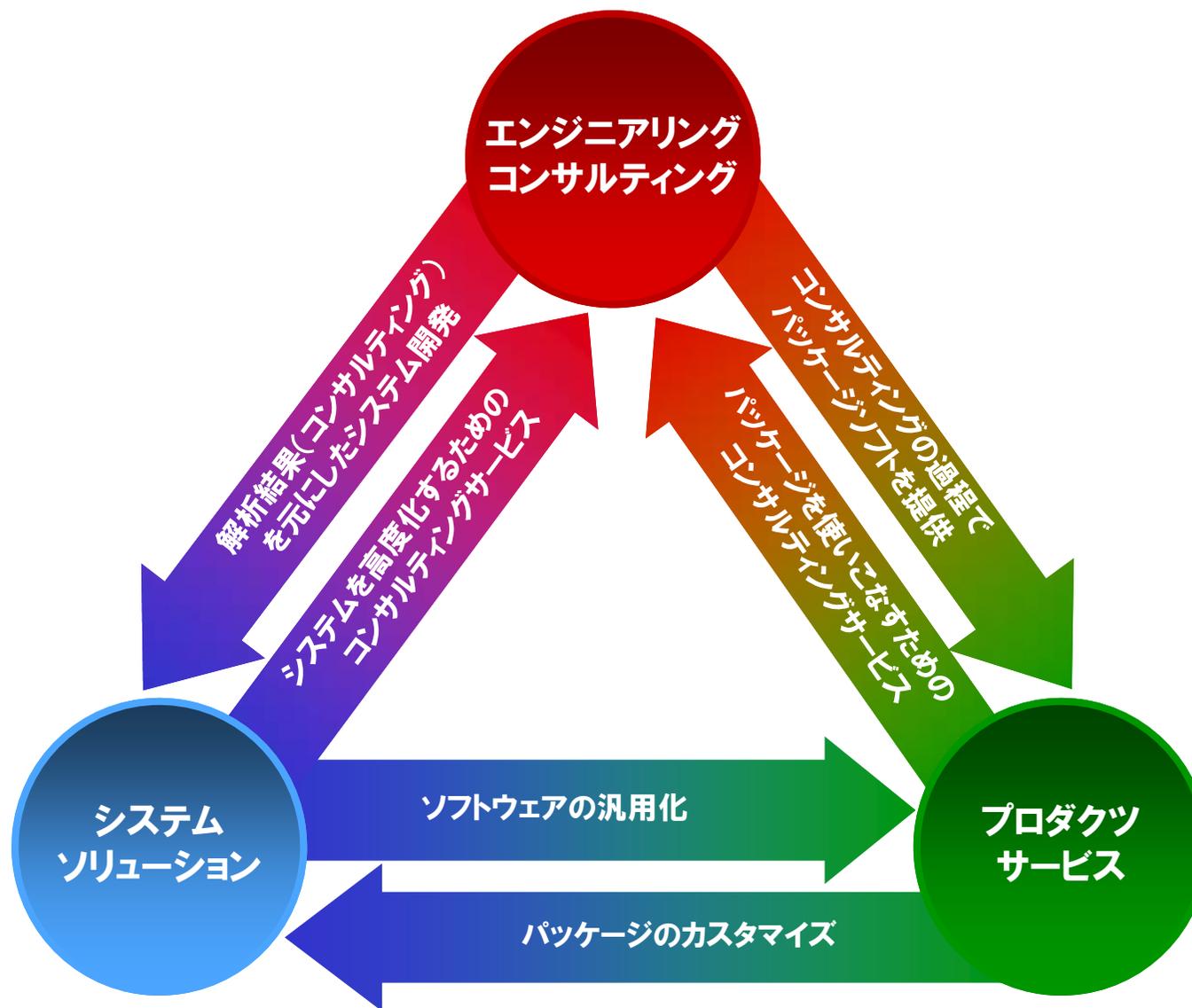
⇒ 当社では、受託プロジェクトの納期・検収期が、顧客期末の3月以降に集中する季節変動要因が存在します。当第3四半期累計期間の純損失は、かかる季節変動による影響ではありますが、通期では黒字化を予定しております。

通期の業績推移

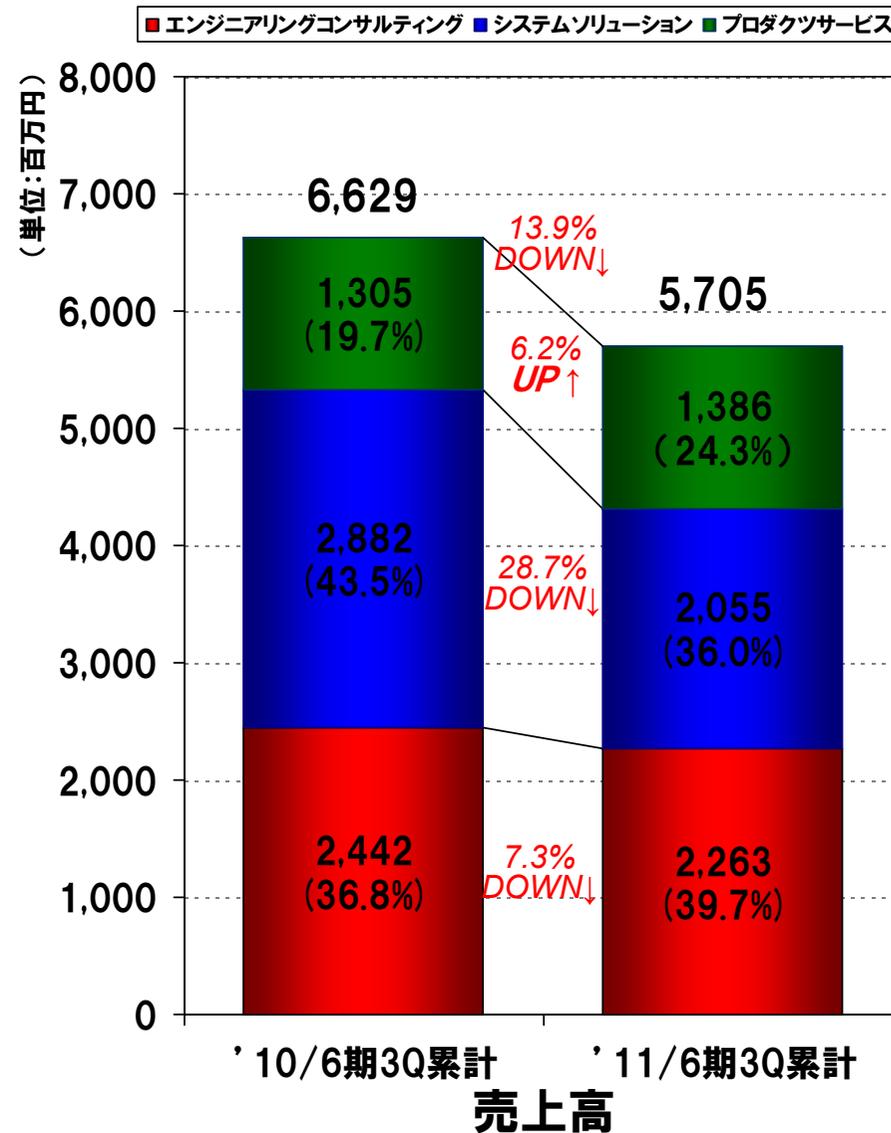
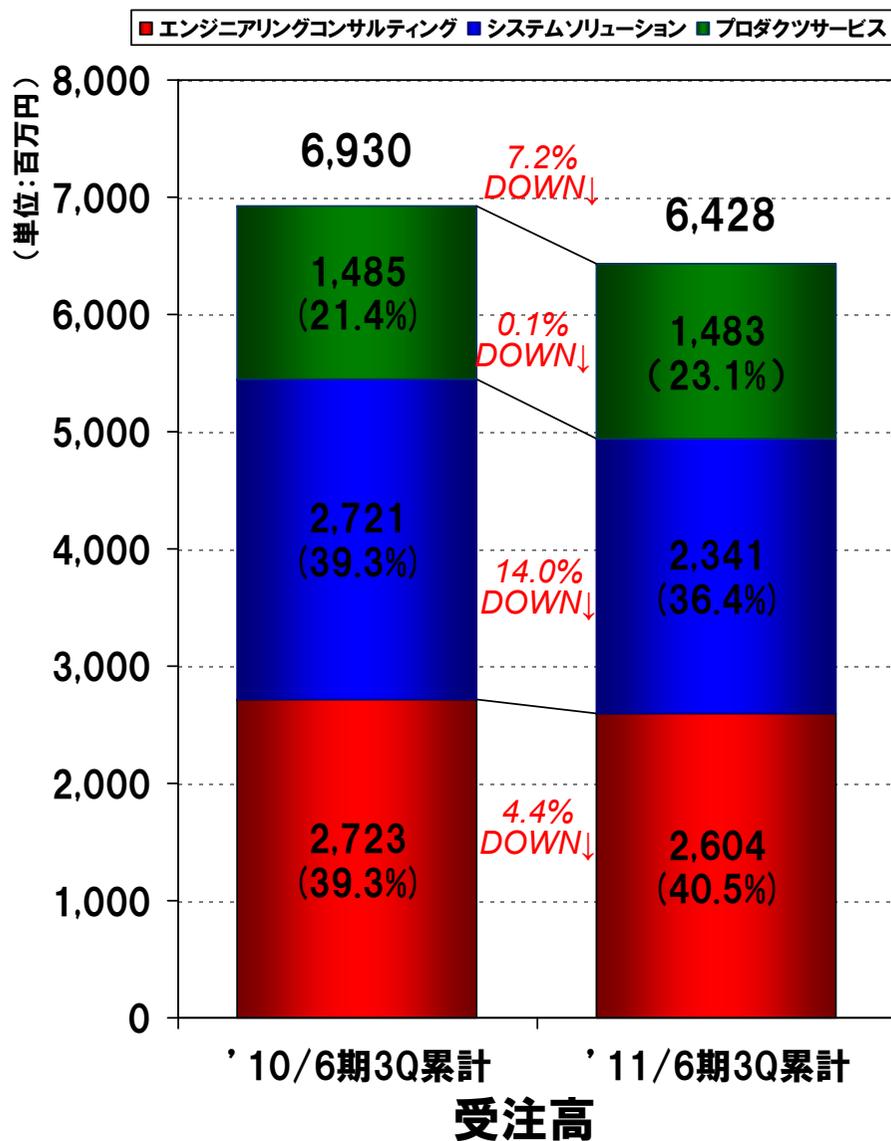


1-2 セグメント別状況

セグメント間のシナジー



セグメント別受注高・売上高の状況

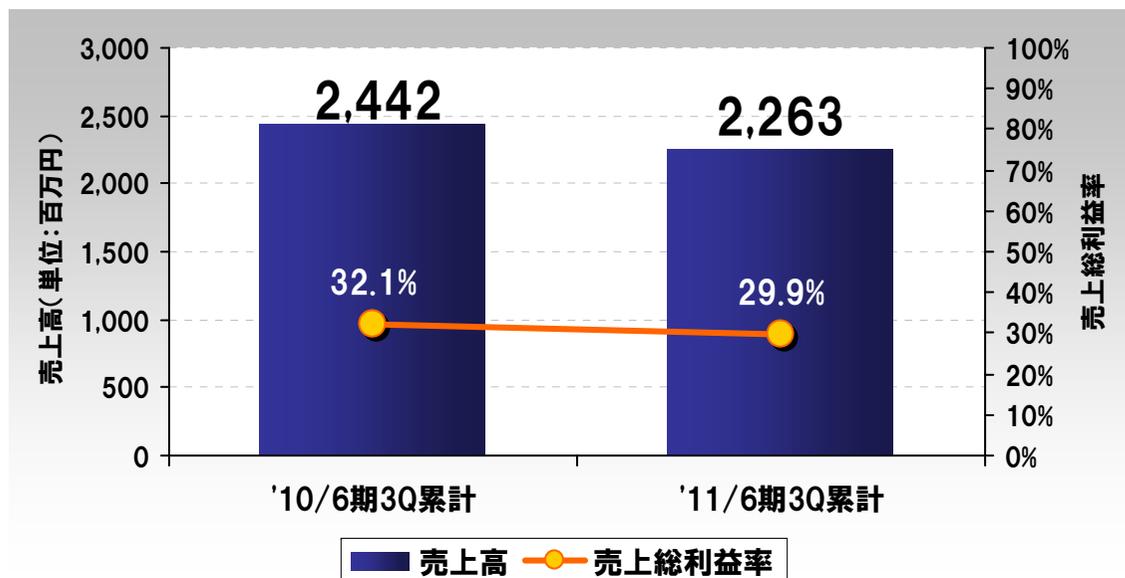


① エンジニアリングコンサルティング

単位:百万円

	'10/6期 3Q累計	'11/6期 3Q累計	増減率
受注高	2,723	2,604	△4.4%
売上高	2,442	2,263	△7.3%
売上原価	1,658	1,585	△4.4%
売上総利益 (利益率)	783 (32.1%)	677 (29.9%)	△13.6%

- ❖ 防災・耐震・環境評価解析コンサル
- ❖ 建築物の構造設計
- ❖ ソフトウェア開発の要求定義・基本検討
- ❖ 製造・物流系シミュレーション
- ❖ マーケティングコンサル、リスク分析
- ❖ マルチエージェントシミュレーション



業績分析

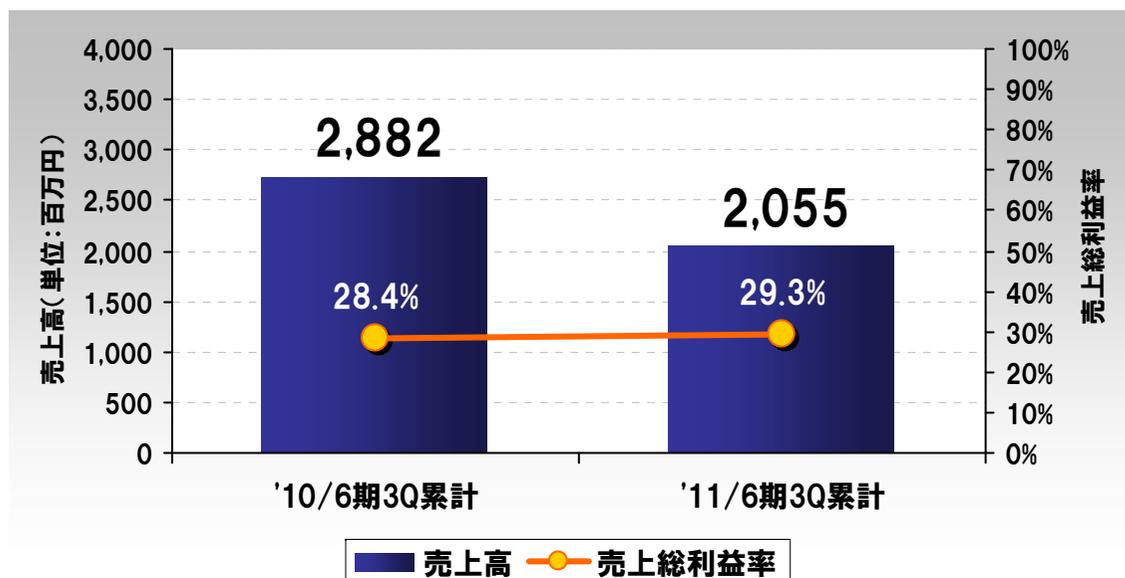
- ・防災関連施設における解析業務が前年同期に比べ減少
- ・官公庁・自治体を中心とした建築物の耐震コンサルティング関連の案件やサービス業・製造業向けのマーケティングコンサルティング業務が堅調に推移

② システムソリューション

単位:百万円

	'10/6期 3Q累計	'11/6期 3Q累計	増減率
受注高	2,721	2,341	△14.0%
売上高	2,882	2,055	△28.7%
売上原価	2,062	1,454	△29.5%
売上総利益 (利益率)	819 (28.4%)	601 (29.3%)	△26.6%

- ❖ 構造設計支援システム
- ❖ 移动通信・モバイル・ネットワーク通信システム
- ❖ 交通関連ソリューションシステム
- ❖ マルチメディアソリューションシステム
- ❖ 製造業向け営業・設計支援システム



業績分析

- 大手通信キャリアおよび製造業向け開発案件が、前年の大型プロジェクトの反動などにより減少
- 大手住宅メーカーやバス事業者向けのソフトウェア開発業務は引き続き堅調に推移

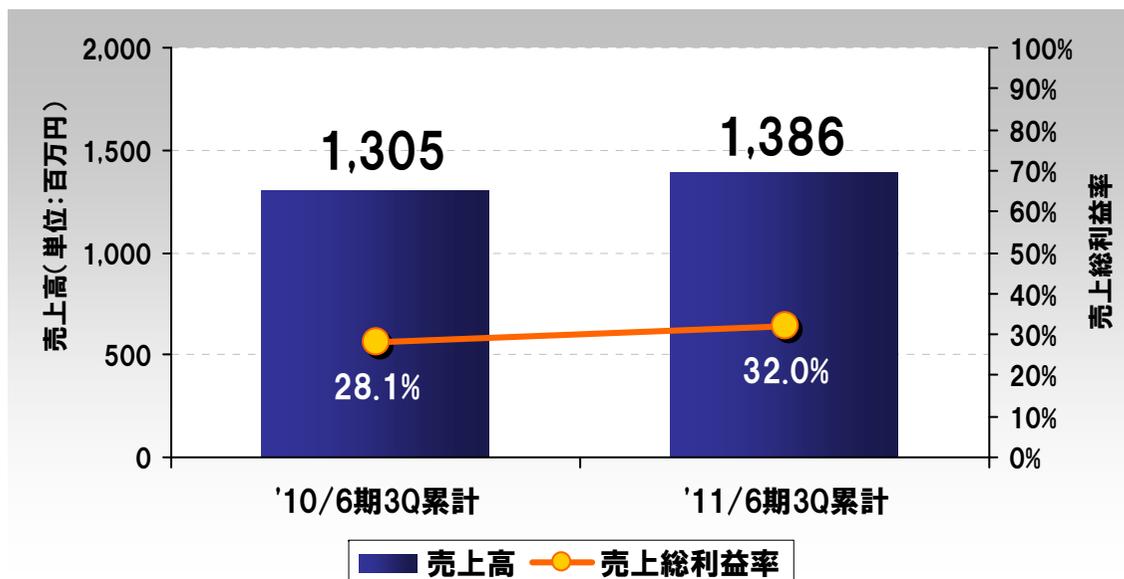
③ プロダクツサービス

単位:百万円

	'10/6期 3Q累計	'11/6期 3Q累計	増減率
受注高	1,485	1,483	△0.1%
売上高	1,305	1,386	6.2%
売上原価	938	943	0.5%
売上総利益 (利益率)	366 (28.1%)	443 (32.0%)	20.8%

※当セグメントの売上原価には、販売部門の販売費を加算しております。

- ❖ 建設系構造解析・耐震検討ソフト
- ❖ ネットワークシミュレーションソフト
- ❖ 電波伝搬・電磁波解析ソフト
- ❖ 製造系設計者向けCAEソフト
- ❖ マーケティング・意思決定支援ソフト
- ❖ 統計解析ソフト、画像認識ソフト



業績分析

- 製造業の設計者向けCAEソフト(熱流体解析ソフト etc.)、統計・品質管理ソフト(シックスシグマ分析ソフト、リスク分析ソフト)の販売が堅調
- 住宅履歴情報管理ASPサービスが比較的好調に推移

1-3 第3四半期の要約財務諸表

比較損益計算書

単位:百万円

	'10/6期 3Q	'11/6期 3Q	対前年同期 増減額 (増減率)
売上高	6,629	5,705	△923 (△13.9%)
売上原価	4,428	3,761	△667 (△15.1%)
売上総利益	2,200	1,944	△255 (△11.6%)
販売管理費	2,198	2,054	△143 (△6.5%)
営業利益	2	△109	△111 (-)

<売上高>

前年同期と比べ、システムソリューション事業の売上高が減少し、57億05百万円となりました。

<売上原価>

外注委託費の削減(前期比322百万円減)をはじめとする業務効率の改善に努めております。

<売上総利益>

売上高の減少に伴い売上総利益も減少しておりますが、前期並みの売上総利益率を確保(33.2%→34.1%)。

<販売管理費>

業務の内製化により販売費及び一般管理費の適正化に努めております。

比較貸借対照表

単位:百万円

	'10/6期 3Q	'11/6期 3Q	対前年同期 増減額
流動資産	4,856	3,952	△903
現金・預金	1,198	972	△225
売掛金	2,190	1,558	△631
固定資産	6,837	7,080	242
資産合計	11,694	11,033	△661
流動負債	5,818	5,079	△739
短期借入金※	3,950	3,725	△225
固定負債	1,907	2,424	516
長期借入金	730	750	20
負債合計	7,726	7,503	△222
純資産合計	3,967	3,529	△438
負債・純資産合計	11,694	11,033	△661

<流動資産>

現金及び預金および売掛金が減少したことなどにより、前年同期に比べて18.6%減少し、39億52百万円となりました。

<固定資産>

世界初3次元免震住宅「知粹館」の竣工により、前年同期に比べて3.5%増加し、70億80百万円となりました。

<流動負債>

短期借入金および前受金が減少したことなどにより、前年同期に比べて12.7%減少し、50億79百万円となりました。

<固定負債>

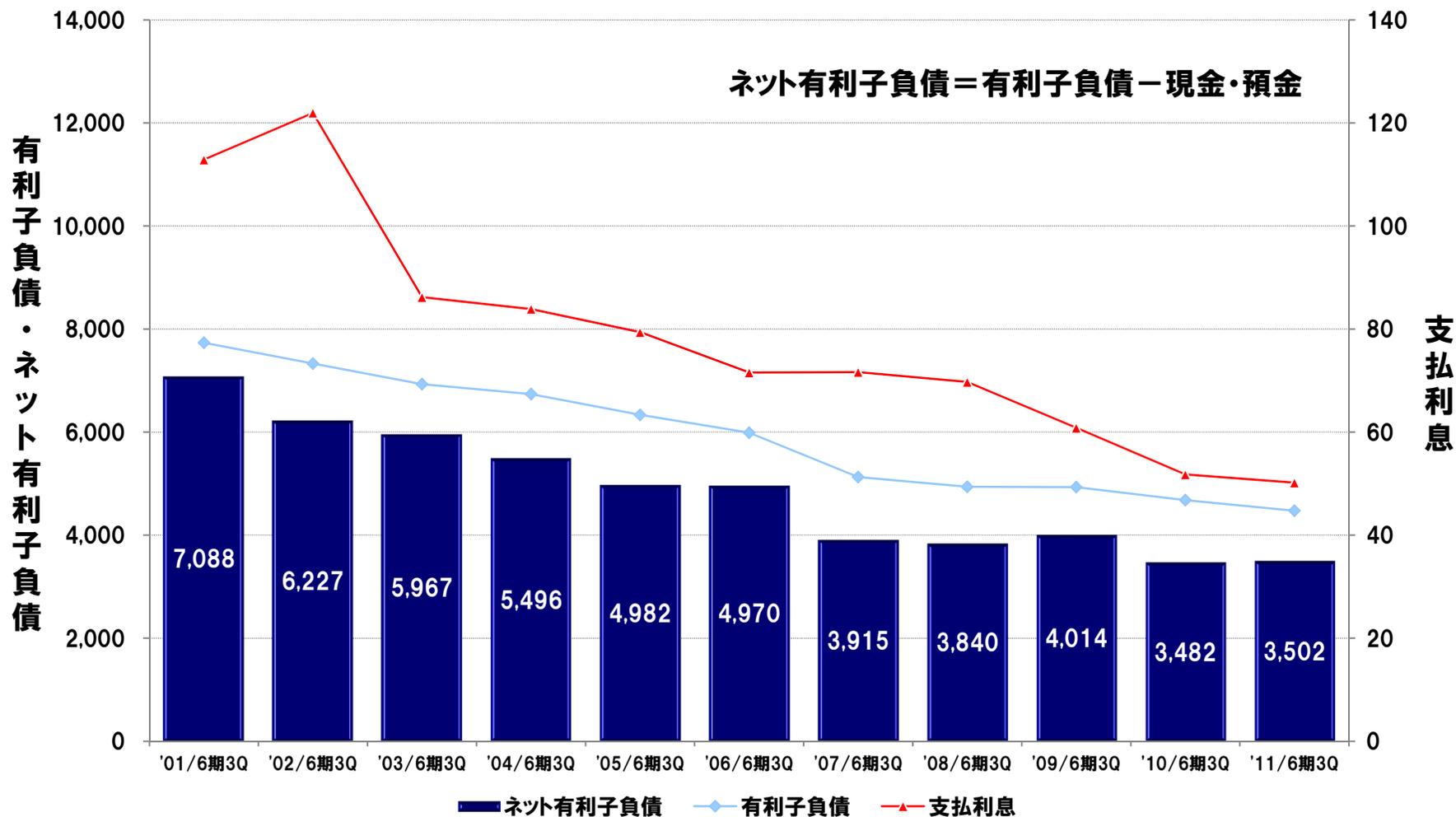
長期未払金の増加により、前年同期に比べて27.1%増加し、24億24百万円となりました。

<純資産>

利益剰余金が減少したことにより、前年同期に比べて11.0%減少し、35億29百万円となりました。

※ 「一年以内に返済予定の長期借入金」は短期借入金に含めて記載しております。

第3四半期におけるネット有利子負債の推移



比較キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	'10/6期 3Q	'11/6期 3Q
期首残高	271	2,228
営業活動 C F	△228	△866
投資活動 C F	△223	△366
財務活動 C F	1,379	△22
期末残高	1,198	972

当期CFの主な内訳

<営業活動によるCF>

税引前四半期純損失	→	△179百万円
売上債権の増加額	→	△74百万円
たな卸資産の増加額	→	△276百万円
未払費用の減少額	→	△455百万円

<投資活動によるCF>

有形固定資産の取得	→	△365百万円
-----------	---	---------

<財務活動によるCF>

長期借入金の純増額	→	270百万円
短期借入金の純減額	→	△150百万円
配当金の支払額	→	△86百万円

2. 2011年6月期 通期業績予想について

2011年6月期 業績予想の修正について

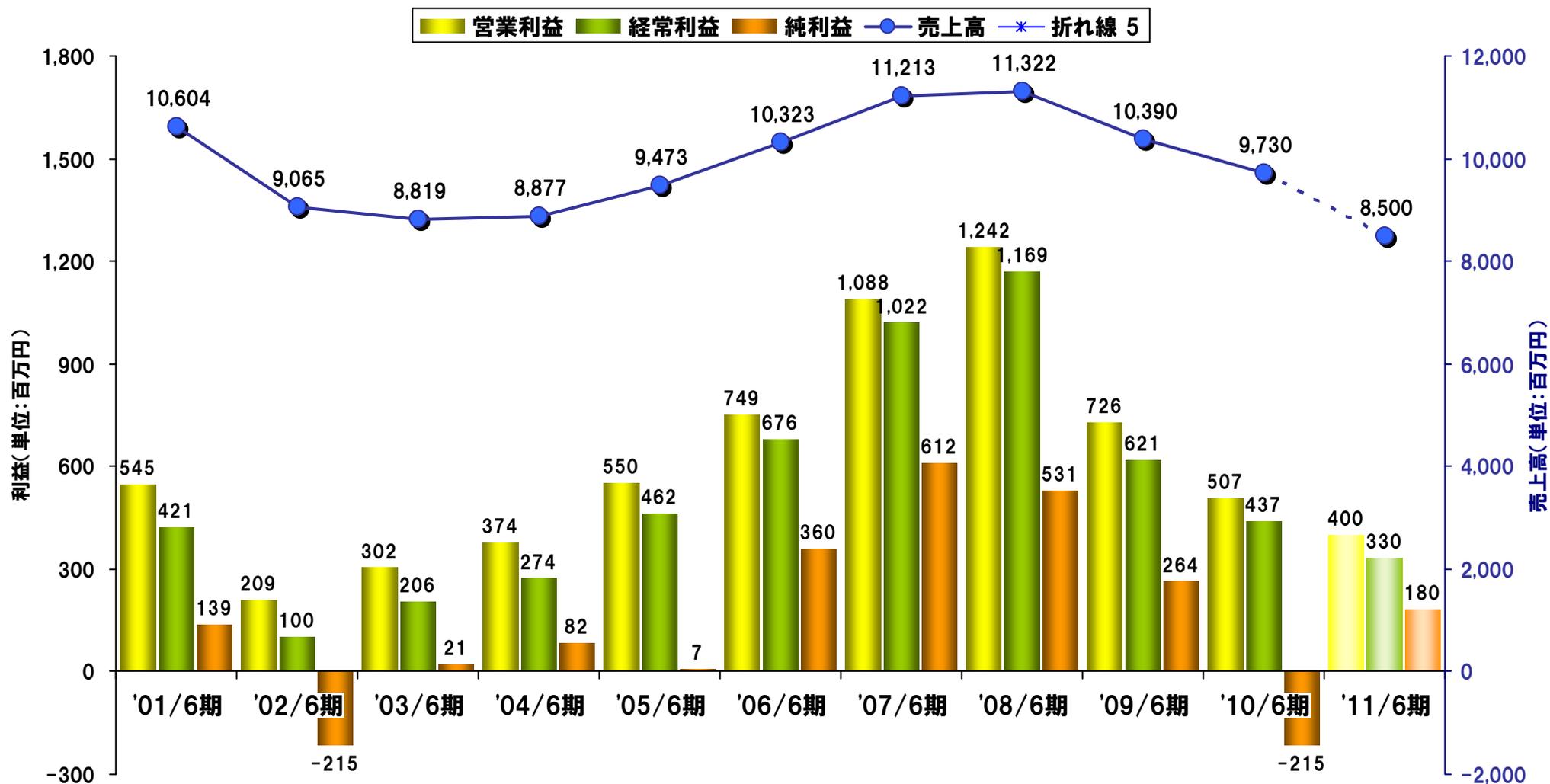
第3四半期以降に見込んでいた受注および売上高が伸び悩んでいることに加えて、震災発生による先行き不透明な状況等を勘案し、2010年8月13日に公表いたしました通期業績予想および期末配当予想を下記の通り修正いたします。

単位:百万円

	'10/6期 実績	'11/6期 当初計画	'11/6期	
			修正後予想 (2011/4/28発表)	前期比
売上高	9,730	10,000	8,500	△12.6%
営業利益	507	720	400	△21.2%
経常利益	437	640	330	△24.6%
当期純利益	△215	350	180	—
配当金	@15円/株	@20円/株	@10円/株	—

(注) 業績予想は、現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要因等を含んでおります。

通期の業績推移と修正後の業績予想



業績向上に向けた施策

- ・ **震災復興への取り組み強化**

今回の未曾有の大惨事にあたり、これまで蓄積された「工学知」(エンジニアリング)を提供することで、一刻も早い復旧・復興に道が開かれるよう尽力

- ・ **エンジニアリングコンサルティングビジネスの拡大**

社会の流れを読み、流れを創ることから参画していく「コトづくり」を推進していくことで、付加価値の高いビジネスを創出

- ・ **プロジェクト管理の徹底**

不採算プロジェクトの未然防止に努めるとともに、品質および生産性の向上を図り利益性の高いプロジェクトの創出に注力

- ・ **経費を抑制**

引き続き、販売費及び一般管理費に関するコスト意識を高め、経費を削減。社内リソースを最大限に活用するとともに、部門間のフレキシブルなリソース転換(最適な配置)を行い、外注費なども抑制(ただし、人材投資、研究開発投資など当社の持続的成長に向けた投資は積極的に実施)

【業績予想に関する注意事項】

本資料に記載されている業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

【お問い合わせ先】

株式会社 構造計画研究所

コンプライアンス部 IR担当

T E L : 03-5342-1141

F A X : 03-5342-1053

E-MAIL : ir@kke.co.jp

H. P. : <http://www.kke.co.jp>